

「ここで最後の病院にしたい！」 鎌倉 9歳

平成3年生まれの子がアトピーと分かったのは3ヶ月検診の時でした。膝や肘の内側がカサカサだったので医者に聞いてみると「アトピーかも？」と返答があり、その時私は「アトピー」という言葉を知りました。

それからしばらくして離乳食を食べるようになり、徐々に症状がひどくなりました。自分で皮膚を掻くようになり、血が出ることもあり、近くの病院に行きアレルギー検査を受けることになり、検査の結果は「アトピー性皮膚炎で卵と小麦粉が原因。」との事でした。そこで帰りに粉薬と塗り薬をもらいました。これがステロイドとの付き合いの始まりです。

薬の効果としては、一時的ではありましたが痒みを抑えることができ、その時は何の疑問も抱きませんでした。何年経っても治る兆しが無く、そんな時に少し疑問を感じてアトピーに関して多くの書物に目を通すようになり、また同様の悩みを抱える人のアドバイスもあり、結果として病院を変える日々が続きましたが、どこもステロイドを使用する医者ばかりでした。

ステロイドが良くないものだと分かりだした時でも、医者が出す薬はステロイドでしかも医者の言い分としては、「弱いステロイドですから、副作用に対しても安全です。」との答えしかなく、そんな繰り返しで、医者を避けるようになりしばらくは食生活(卵をひかえる)での我慢が続いておりました。

そんな時にご近所の方からステロイドを使わないで治して下さる松本医院のを知ることになり、初めて病院を訪れたときに待合室で大勢の方の手記を読み、驚きと共にやや諦めていた治療に関して期待を抱けるようになりました。それからは当時8歳の娘がここでいただく「ニガイ薬」を頑張って飲み、時間と共に治っていく様子が明らかなものとなり、10歳の頃には症状も外観ではほとんど出なくなり、自己の判断がいけなかったのですがもう治ったのではと判断してしまうまでになり、病院が遠ざかるようになりました。

しかし今年の春先ぐらいから症状がまた出始め、小学校のプールが始まると塩素の原因？で症状も酷くなり「自己の判断での処理」に大反省です。今度こそ先生の判断で完治しましたと言われるまで治療し、頑張っていきます。